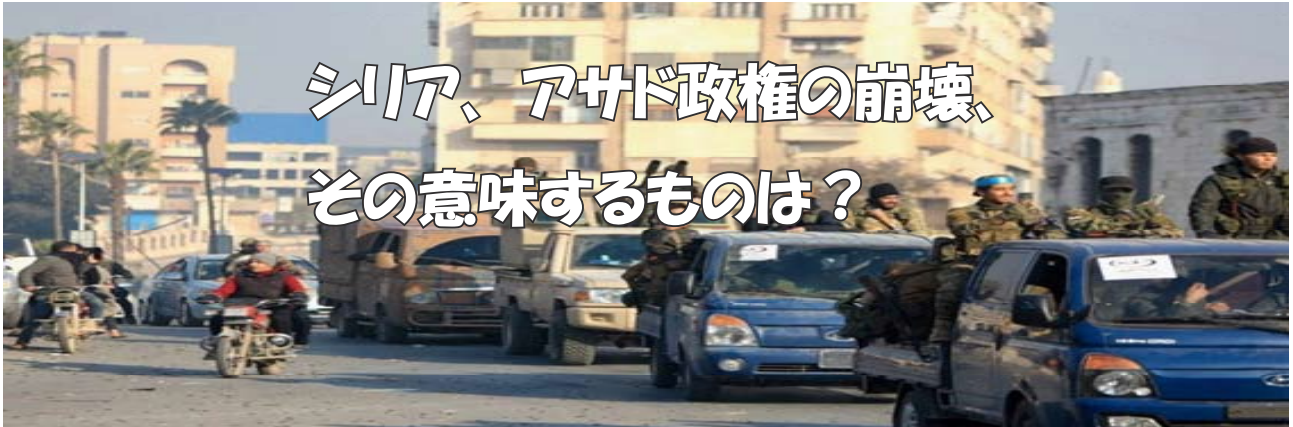


オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2024年12月20日第49号 (通巻55号)
 オリーブの会
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453
 tel/fax:072-737-9454
 mail: oribunokai@gmail.com
 facebook: oribunokai
 blog: olivenokai.hatenablog.com



11月27日レバノンで、ヒズボラーとイスラエルの停戦が成立したときに、トルコの支援を受けたシャム解放機構が11月30日イドリブから進軍を開始し、アレッポ、ハマ、ホモスを陥落させ、12月8日ダマスカス陥落させ、また、シリア南部からも進軍してきた。そして、バシャーール・アサド大統領は、抵抗らしい抵抗もせず、ロシアへと亡命した。

この攻撃は、これまでアサド政権側で闘っていたヒズボラーがイスラエルとの戦闘で疲弊し、また、後ろ盾のロシアも、ウクライナ戦争にその力をそがれており、アサド政権を支えていた力が弱まったすきを狙って攻撃をした。

イスラエルは、政権軍の軍事施設に対して、これまでで最大の爆撃を繰り返し、また、占領下のゴラン高原で、74年の停戦ラインを超えて、緩衝地帯に進軍し、さらにダマスカスまで30キロの地点まで侵攻し、ゴランの占領の拡大を宣言した。そしてシリア側のゴラン住民を強制的に追い出した。

その間も、イスラエルは、レバノンで停戦違反を繰り返し、また、ガザには爆撃を続けている。

シリアの陥落が意味するもの

イラク、イラン、リビア、シリア、ヒズボラーを破壊し、反帝国主義、反シオニズムのアラブ民族主義の破壊をこの出来事は完成させた。イスラエル、米国は中東での支配の強化を図るために反米、民族主義政権の解体を画策し、一貫して中東の地図を塗り替えようとしてきた。サダム・フセインのイラクの打倒、リビアでのカダフィ政権の打倒、そして、イランの弱体化を図ってきた。その

最終的仕上げがアサド政権の打倒である。

シリアは、アラブの春以前から、スンニー派のイスラム原理主義に率いられた反乱がおこっていた。アラブの春以降、露骨に外国の勢力に支援された武装勢力がシリア内を分割していた。とくに、ISISがイラクで生まれ、シリアにまたがって、その支配を拡大し、それに対して、米国や、ヌスララ戦線などが勢力を争っていた。ヌスララ戦線は、アルカイダのシリア支部であり、米国は、クルド人中心のシリア民主軍を支援し、シリアの石油採掘地域を支配していた。

アサド政権を打倒したシャム解放機構は、もともとアルカイダ系のヌスララ戦線であり、ISISと同様イスラエルに敵対したことはない。いままイスラエルに好きなように攻撃されているのに、国を守る行動をとっていない。

アサド政権を一反政府勢力が倒したとしても、他の勢力が群雄割拠しており、どれだけ統一できるかが、シリアが、リビアやイラクのようになるかならないかのカギである。

新政権は暫定憲法を発表し、イスラム教を国教として規定し、非常事態宣言を盛り込んだ。アサド政権下では、イスラム教を国教とはせず、大統領をイスラム教徒とするとしていた。また非常事態宣言は、アサド政権下で解除されていた。アサドのアラブバース社会党は、キリスト教、アラウイ派など少数派が中心に作られ、宗教に依存しないアラブ民族主義を訴えていた。それが国民の多数派であったスンニー派のイスラム教徒の不満になっていたし、それが叛乱の根底にあった。

イスラエルにとっては、強力な政権ができるより、内部分裂で、弱体化する政権の方が有利であり、イスラエ

ルは安全と考えるだろう。

各国の思惑

シリアは内戦を十通して、トルコ、米国の影響下であり、ISISも依然として力を持っている。今回のシリア解放機構の進軍は、その裏に、トルコの存在があるといわれている。米国のトランプ次期大統領も、トルコが行ったと非難している。米国は、トルコがテロリストとしていたクルド人が主体のシリア民主軍を支援しており、また、その支配地域には石油資源がある。またシリア解放機構は、米国がテロ組織と規定している。そして、指導者の首に賞金までかけている。そして、ISISの残党が存在しており、米軍とシリア民主軍は攻撃を行っている。さらにシリアには、ドルーズ派、アサド一家のアラウイ派、キリスト教徒などが存在している。シリア解放機構は、スンニー派のイスラム原理主義であり、かれらが原理主義を貫けば、シリアはリビアのようになってしまう。

イスラエルにとっては、シリアがイランの影響力を排除し分裂し弱体化した国家であればあるほど、自らの安全を図れると考えている。イスラエルにとっては、アサド政権が保持していた軍事を破壊し、新政権や他の反政府勢力にわたらないようにすれば、イスラエルの安全は図れるし、国連が監視している緩衝地帯は、イスラエルにとって、不要であり、イスラエルが直接シリアを監視するために、ヘルモン山の戦略的な拠点まで占領した。さらには、占領地のゴラン高原の入植地を拡大しようとしている。

抵抗勢力への影響

シリアのアサド政権の崩壊は、イランとヒズボラの影響力を低下させることになった。イラン、イラク、シリア、ヒズボラのシーア派の勢力を分断することになった。ハマスも、スンニー派の原理主義で、アサド政権とは良好な関係ではなかった。ヒズボラとの関係もギクシャクしていた。ハマスへの影響は、イスラエルの北部戦線が弱体化することで、イスラエル軍がガザに集中することができるようになり、ハマスがイスラエルに有利な停戦条件をのまざるを得ない条件を作っている。

ガザの停戦は実現するのか

イスラエルの新しい中東の構図は出来上がった。あとは、サウジとの正常化を図れば、完成することになる。しかし、ガザでの戦闘の継続、パレスチナ国家の未承認などの課題が残っている。その意味で、ガザでの停戦の実現が必要とされている。ガザでの停戦は、トランプが大統領になるまえに実現する可能性は、高い。

ハマスも、自治政府と話し合い、自治政府のガザの管理を認めている。

パレスチナの統一は困難に

しかし、自治政府は、シリアでアサド政権が打倒されると、武装抵抗勢力の拠点である西岸のジェニンに治安の維持を口実に治安部隊による武装攻撃を加え、抵抗勢力との戦闘になっている。ファタハだけがこの攻撃を支持した。ジェニンの住民は、治安部隊の攻撃を非難し、抗議行動を行った。住民にとっては、占領軍、入植者に立ち向かい住民を防衛しているのは抵抗勢力であり、自治政府の治安部隊は、占領軍、入植者の暴力から住民を守ろうとしていないから当然抗議が起こるのである。

抵抗勢力のほとんどがアサド政権、イランなどとの関係を持っており、その弱体化の中で、シリアの反政府勢力のように、抵抗勢力が弱体化したとみて、攻撃を始めた。一方でハマスとの和解をしながら、米国、イスラエルにその役割を認められるようにしている。ハマスの弱体化で、ガザでも自治政府の支配をイスラエルの力のもとに行おうとしている。イスラエルの占領を終わらせようとする抵抗勢力との間で統一をつくることは困難だろう

中東はどこへいくのか

ネタニヤフが9月29日の国連演説で、二つの地図を掲げた、ひとつは、「呪われたもの」もう一つは「祝福されたもの」とタイトルがつけられていた。呪われたものはシリア、イラク、イランが黒く塗られ、祝福されたものは、イスラエル、ヨルダン、サウジ、エジプト、スーダンが含まれていた。もちろんそこにはパレスチナは存在しない。いま、呪われたものの一つであるシリアが崩壊し、イランの影響力が低下した。

この次に、イスラエルが目標とするのは、サウジとの正常化である。そのためには、ガザでの停戦、パレスチナ国家の承認がハードルとして存在している。

昨年の10月7日のガザの抵抗勢力の蜂起は、一旦この流れを断ち切ったが、再びサウジとの正常化に向かおうとしている。

来年1月20日に「アブラハム合意」の立役者、キリスト教シオニストのトランプが大統領に就任する。サウジを引き入れるために、ガザの停戦で、自治政府をガザの管理者にし西岸と同様に抵抗勢力を抑え、イスラエルの許容するパレスチナに作り替えられる。そして、西岸の併合は進んでいくことになるだろう。抵抗勢力は再び困難な状態に置かれることになる。パレスチナの人々には占領の現実がつづくことになる。

このような状況で、パレスチナへの国際連帯の闘いが重要になる。



シリアの過激派がシリアでバシール・アル・アサドを倒した。(デザイン：パレスチナ・クロニクル)

2024年12月9日 記事、解説
ジェレミー・ソルト著

西側諸国とそのアラブ世界の「同盟国」にとって頑強な障害であるシリアは、1918年以來ずっと標的にされてきた。

シリアは陥落した。バシール・アル・アサドや「政権」だけの問題ではない。シリア人は両者に反対しているかもしれないし、ハヤト・タハリール・アル・シャム (HTS) の勝利をきっかけに両者に反感を抱くかもしれないが、彼らは避雷針にすぎない。シリア自体が本当の標的なのだ。

西側諸国とそのアラブ世界の「同盟国」にとって頑強な障害であるシリアは、1918年以來ずっと標的にされてきた。今や、西側支配に対するこの歴史的抵抗の中心的支柱は、それが「枢軸」の一部となるずっと前から、ついに打ち破られた。

世俗的な政府は消え、シリアはアルカイダとイスラム国から派生したハヤト・タハリール・アル・シャム (HTS) によって結束した武装集団連合に乗っ取られた。

その近代的穏健主義の主張は、西側諸国の支持を獲得し維持するために調整されている。そのメンバーの中には、イスラエルへの「愛」を宣言した者もいる。イスラエルが戦争初期から武器やイスラエル国内での病院治療で武装集団を支援していたことを考えると、これはそれほど驚くべきことではない。それでも、アラブ人とイスラム教徒の利益を最優先に考えているはずの戦闘員にとっては奇妙な立場だ。

ヒズボラとイランは今や両者を結ぶ陸橋を失い、パレスチナ人はかつてないほど孤立している。イスラエルはガザ地区でさらに圧力を受けていない。ガザ地区では、イスラエルは間違いなく間もなく北部の植民地化とヨルダン川西岸地区の併合を開始するだろう。トランプ政権の誕生で、米国の全面的な支援はさらに強化されるだろ

う。

これらすべてがどのようにして起こったのか、そしてこれほど急速に起こったのか、疑問が山積している。わずか2週間足らず(11月27日～12月8日)で、シリア全土が陥落した。それはまるで台本通りだったかのよう

に、時計仕掛けのような正確さだった。シリア、ロシア、イランの合同諜報機関がイドリブで何が起きているのか知らなかったとは信じがたいが、それにもかかわらず、攻撃が開始されると、彼らは攻撃を阻止するためにほとんど何もしなかった。シリア軍による国中の抵抗は最小限で、それも台本通りだったかのようだった。

イドリブから撤退した軍の背後にいるリーダーは、タIPP・エルドアンだった。トルコは、2012年にシリア政府に対する作戦の軸となった。世界中からジハード主義者がやって来て、シリアのタクフィリ派グループに加わったのはトルコを通じてだった。タクフィリ派グループはすべてイスラム国の思想的クローンだった。

アレッポの占領は、当時のトルコ大統領の主な目標だった。最近の攻撃では、アレッポだけでも大きな成果だったが、その後すぐにハマ、ホムス、そしてダマスカスが陥落し、バシール・アル・アサド大統領とその家族はダマスカスからの最後の飛行機で脱出し、現在はモスクワに亡命しているようだ。

HTSの勝利は、トルコが果たした主要な役割なしには実現できなかっただろう。シリア北西部では、トルコは独自の「シリア国民軍」を訓練した。「反政府勢力」へのすべての物資と支援は、トルコ国境を越えて来なければならなかった。シリア北西部を直接支配するほか、HTSはトルコの保護下でイドリブを統治した。

2018年と2020年にカザフスタンの首都アスタナで会談したトルコ、イラン、ロシアは、イドリブでの「緊張緩和」の必要性について合意し、シリアの地上で新たな現実を作ろうとするあらゆる試みを拒否することに合意

し、ヌスラ戦線とアルカイダおよびイスラム国と関係のあるすべてのグループを排除する決意で合意し、シリア紛争の軍事的解決はあり得ないことに同意した。

2019年には、3か国政府はまた、HTSと関連グループの「存在感とテロ活動の増加」に「深刻な懸念」を表明し、ヌスラ戦線とアルカイダおよびイスラム国と関係のあるすべてのグループを排除する決意を改めて強調した。

これらの原則は、合意された原則の他の違反については一切言及されていない、シリア紛争に対する最近の「軍事的解決」だけでもわかるように、この合意には価値がないことが判明した。

昨年のある時点で、ロシアがシリアに関して厳しい決断を下さなければならなかったことは明らかだ。NATOとその代理ウクライナとの消耗戦が3年続き、日増しに危険が増していた。

ロシアはNATOの基地に囲まれており、その基地はドイツのラムシュタインよりも大きく、現在ルーマニア南部に建設中である。国境周辺の住民は戦争に備えていた。ロシアはジョージアで新たな脅威に直面しており、ここ数週間で反政府デモが国内に広がっている。ウクライナ政府転覆を模した陰謀がジョージアによって主張されている。ロシア政府の大臣やメディアは、シリアに対する軍事支援をこれ以上続けることはできないと決断した。

こうした背景と国内情勢を最優先に考えたロシアは、シリアに対する軍事支援をこれ以上続ける余裕はないと判断した。おそらく、ロシアがシリアから撤退する代わりに、米国がウクライナから撤退するという条件で米国と取引が行われたのだろう。ロシアがシリアをこれ以上支援できなくなったため、イランも撤退した。

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は、今年7月に、事前の謝罪とも取れる発言をした。

「我々は、シリア国民がまたもや地政学的な実験の場となったことを非常に残念に思っている。我々は、ハヤト・タハリール・アル・シャムのようなテロリストを地政学的な目的のために利用することは絶対に許されないと確信している… 人々がロシア連邦や私個人に対して抱くイメージについて残念に思っているわけではないが、シリア国民の運命については深く懸念している」「我々は、支配を維持しようとする者たちに邪魔されたイラク人、リビア人、その他の国々と同じ運命をシリアが被ってほしくない。」

実際、シリア国民は、自国への攻撃が始まった最初の数年間にすでに同じ運命をたどっていた。

西側諸国と其中東同盟国、主にトルコとイスラエルの勝利の全容が理解されるまでにはしばらく時間がかか

るだろうが、1918年以来西側とイスラエルの覇権に頑固に抵抗してきたシリアは、ついに打倒された。

西側諸国は、直接関与し、同盟国や代理国を支援し、ついに中東の物理的心臓部だけでなく、文化的、政治的心臓部からも電源を抜くことに成功した。「アラブ主義の鼓動する心臓」であるシリアは、当面の間、そしておそらく今後長い間、沈黙させられた。

世俗的な西側諸国は、アルカイダとイスラム国の子孫によるダマスカスの世俗政府打倒を支持してきた。HTS（以前はヌスラ戦線）は、内部で犯された残虐行為の長い記録にもかかわらず、変化した運動であると主張している。

アブ・ムハンマド・アル・ジュラーニ（その首長であるアフマド・フセイン・アル・シャラの戦闘名）は、今や、ゼレンスキーのTシャツと多少似た色の、よくアイロンをかけた緑のジャケットを着てカメラの前に現れ、ひげをきれいに整え、すべての民族宗教グループは安全であると約束している。

彼の言葉を鵜呑みにしてはいけない。2020年、「親政府勢力」とHTSの両方が、イドリブの戦いで戦争法に「甚だしく」違反したとして、国連のシリア特別委員会から非難された。

同委員会によると、HTSの「テロリスト」は民間人の家を略奪し、「ジャーナリストを含む反対意見を表明した民間人を拘束、拷問、処刑した。女性メディア関係者は二重の被害を受けた」という。HTSは「人口密集地域を無差別に砲撃し、政府支配地域に住む民間人の間に恐怖を広げた」。

イドリブに課された厳しいイスラムの支配とは別に、HTSは米国およびその他の国でテロ組織に指定されている。ジュラーニ自身も米国から1000万ドルの懸賞金をかけられており、米国は公式にテロ組織とみなしている組織によるシリア政府の打倒を祝う中で、その立場の矛盾を解決しなければならない。

シリア政府の崩壊は、西側諸国とイスラエルにとってまさに圧倒的な勝利である。抵抗の軸は真ん中で崩壊した。ヒズボラはもはや、戦略的に統合された3つの主要な部分ではなく、抵抗運動としての有効性が大幅に低下した2つの別々の部分である。

ヒズボラは、指導者の暗殺と戦場での損失によってすでに深刻なダメージを受けていた。ガザで停戦が行われない限り決して行わないとハサン・ナスララが言っていた停戦を受け入れざるを得なかった。これは、レバノンの特定の状況と、イスラエルによって虐殺され、家を追われた人々の利益を考えると、ヒズボラには受け入れる

以外に選択肢がなかった合意だった。

同盟国を失い、シリアからイランへの補給線が HTS 主導の同盟によって切断されたか、切断されようとしているため、抵抗運動としてのヒズボラの将来は、地域的というよりはレバノンのものに思える。レバノンイスラエルのさらなる攻撃から守ることはできるが、より広い前線ではほとんど何もできない。

過去1年間の毎日の残虐行為の後、「これまで以上に」想像できるとしても、パレスチナ人はこれまで以上に孤立している。イスラエルは、国際社会の介入なくして、あからさまな大量虐殺を犯すことができたが、シリア以降は、以前よりもさらに大きな移動の自由を手に入れている。イスラエルはヨルダン川西岸地区の併合の準備を整えており、間違いなく間もなく北ガザ地区の植民地化を開始するだろう。

今は、シリア情勢が今後どうなるかを推測する時ではない。HTS は、シリア全土に実行可能な政府を樹立したいとしているが、国中の亀裂を考えると、短期的にもそれはありそうにない。その中でも、HTS の主な支援者であるトルコ政府の反 YPG/SDF 政策は、シリアの現状と正反対である。これは、米国によるクルド人支援によるものだ。

シリア外の政府とそのタクフィリ派の代理人が故意にシリアに持ち込んだ宗派主義と比較すると、シリア政府のもとでは少数派は存在せず、異なる民族的、宗教的背景を持つシリア人だけが存在する。

何年にもわたる戦争、大規模な破壊、そして数十万人の命の喪失を経て、シリア国民がようやく平和を手にする

ことが大いに期待される。同時に、シリアが「アラブ戦線」から離脱したことは、イスラエルと西側諸国にとって大きな勝利であり、中東全域における米国 / イスラエルの覇権に対する継続的な闘争における大きな後退である。

シリア危機は、1916年にサイクス・ピコ協定の地図が描かれ、1920年のサンレモ会議で発効して以来、中東をこの地域で最大の帝国の激変の瀬戸際に追い込んでいく。

しかし、ガザでのジェノサイドの前例のない残忍さによって強固になった抵抗は、過去100年間のあらゆる挫折の後と同じように、パレスチナとアラブの戦線で古い形と新しい形で続くだろう。

– ジェレミー・ソルトは長年にわたりメルボルン大学、イスタンブールのボスポラス大学、アンカラのビルケント大学で教鞭をとり、中東の近代史を専門としている。最近の著書には、2008年の著書『中東の崩壊。アラブ諸国における西洋の混乱の歴史』（カリフォルニア大学出版）と『最後のオスマン帝国戦争。1877年から1923年までの人命損失』（ユタ大学出版、2019年）がある。彼はこの記事のパレスチナ・クロニクルに寄稿した。

注

タクフィリ派；他の宗教を不信心とみなすスンニー派
サイクスピコ協定 1915年11月頃から 連合国側は大戦後のオスマン帝国における勢力分割について秘密裏に交渉が始まり、イギリスのマーク・サイクスとフランスのジョルジュ=ピコによって案の作成が進められた。その後、ロシア帝国外相セルゲイ・サゾノフも加わってペトログラードで秘密協定が結ばれた。



シリア – 勝者と敗者、あるいはその両方

2024年12月9日、Moon of Alabama に B が投稿 (Moon of Alabama によるその他の記事) (2024年12月11日投稿)

シリアは陥落した。

今や国が崩壊する可能性が非常に高い。国外および国内の関係者は、それぞれが可能な限り死体の多くの部分を捕獲および / または支配しようとするだろう。

そこから何年にもわたる混乱と争いが続くだろう。

イスラエルはシリア領土をさらに大量に奪取してい

る。シリアのクネイトラ市と、クネイトラ地域のアル・カハタニヤおよびアル・ハミディヤの町を支配下に置いた。また、シリアのヘルモン山にも進撃し、現在はシリア首都からわずか30キロ(上空)に位置している。

また、射程圏内のシリア軍備貯蔵施設を爆撃することで、シリアの非武装化をさらに進めている。防空陣地と揚陸装置が主な標的だ。今後何年にもわたり、シリア、あるいはそこから発展する国は、外部からの攻撃に対して完全に無防備になるだろう。

今のところ、シリアではイスラエルが大勝利を収めている。しかし、落ち着きのないジハード主義者が国境に迫っているため、それがいつまで続くかは未知数だ。

米国はシリア中央砂漠を爆撃している。ISISを攻撃すると主張しているが、本当の標的は、米国が支配するシリア東部とイスラエルが支配する南西部とのつながりを阻む可能性のある、あらゆる地元(アラブ)の抵抗勢力だ。このつながりをさらに強化して、川から海までシオニストが支配する国家、エレッツ・イスラエルにするという計画がある可能性もある。

トルコはシリア攻撃で大きな役割を果たしてきたし、今も果たしている。トルコは「シリア国民軍」(旧自由シリア軍)に資金を提供し、統制しており、主にシリアのクルド人分離主義者と戦うために利用している。

トルコには300万から500万人のシリア難民がいるが、トルコのスルタンを志すエルドアンは国内政治上の理由からシリアに帰還することを望んでいる。混乱が進む中、それは許されないだろう。

トルコはアルカイダから派生したハヤト・タハリール・アル・シャムを育成し、アレppoを占領するよう圧力をかけてきた。トルコはそれがさらに進むとは予想していなかった。シリアの陥落は、米国が支配権を握っている今、トルコにとって問題となっている。ワシントンはHTSを自国の利益のために利用しようとするだろうが、控えめに言っても、トルコが何をしようとも、必ずしも両立するわけではない。

トルコの主な標的は、トルコ国内のクルド人反乱軍と、シリアのクルド人からの支援である。シリア民主軍として組織されたクルド人は、米国によって支援され、統制されている。SDFはすでにエルドアンのSNAと戦っており、トルコによるシリアへのさらなる侵攻はSDFの脅威となるだろう。

東シリアの米国占領に支えられたSDFは、シリア東部の主要な石油、ガス、小麦の産地を掌握している。ダマスカスを支配したい者は、国家の資金を調達するためにこれらの資源にアクセスする必要がある。

1,000万ドルの賞金が懸けられているにもかかわらず、HTSのリーダーであるアブ・モハメド・アル・ゴラニは現在、西側メディアによって、統一的で寛容なシリアの新リーダーとして取り上げられている。しかし、彼のHTS自体は、さまざまな国の強硬なジハード主義者の連合体である。シリアには略奪できるものがほとんど残っておらず、これらの資源が尽きるとすぐにHTS内での戦闘が始まる。ダマスカスのシーア派とキリスト教の聖地を略奪し始めた同志たちの宗派的衝動をアル・ゴラニは抑えることができるだろうか？

ロシアはここ数年、アサド政権にそれほど力を入れていなかった。アサドがほとんど役に立たないパートナーになったことをロシアは知っていた。ラタキア県フメイミムにあるロシアの地中海基地は、ロシアにとってアフリカへの足掛かりとなる。シリアの新指導者には、ロシアを追い出すよう米国が圧力をかけるだろう。しかし、シリアの新指導者は、賢明であれば、ロシアを留めておきたいと思うだろう。いずれ必要になったときに代替りの選択肢を持つことは決して悪いことではない。ロシアは今後何年もラタキアに留まるかもしれない。

シリアの陥落により、イランはイスラエルに対する抵抗の軸となる主要なリンクを失った。レバノンのヒズボラが提供していた前線防衛は今や崩壊している。

元将軍ウェズリー・クラークは、かつてペンタゴンで行った会談について次のように報告している。

これは、イラクから始めて、シリア、レバノン、リビア、ソマリア、スーダン、そして最後にイランまで、5年間で7カ国を倒す方法を記したメモだ。

この有名なメモに記された7カ国のうち6カ国は、すでに混乱に陥っている。イランは、これまでのところ、これらの計画の唯一の生き残りだ。イランは緊急に国内

アハリー病院に支援を

アハリー・アラフ病院を支援する会

東京都新宿区西早稲田2-3-18

キリスト教事業所連帯合同労働組合気付

問合せ Fax: 03-3207-1273 (担当: 星山・新名)

メール ayyam_ahli@yahoo.co.jp

(振込先)

口座名義: アハリー・アラフ病院を支援する会

郵便振替口座: 00150-7-601525

防衛力をさらに強化する必要がある。今こそ、イランが本物の核兵器を手に入れるべき時だ。

次期トランプ政権は、中国を最大の敵とみなしている。シリア（およびウクライナ）を混乱に陥れることで、退任するバイデン政権は、トランプが中東（および東ヨーロッパ）に関与し続けなければならないことを確実にし

た。

米国の大規模な「アジアへの回帰」は、また待たなければなりません。これにより、中国は勢力圏を築くための時間が増えます。おそらく、この件で勝利を収めた唯一の勢力です。



シリアのダマスカスで、反体制派の戦闘員が故シリア大統領ハーフィズ・アサドの壊れた胸像を踏んでいる。

シリアを悩ませた統治の失敗は、特異なことではない。それは地域全体を壊滅させた権力モデルである。

ラミ・G・コウリ

ベイルート・アメリカン大学特別研究員

2024年12月8日

12月8日、2週間足らず続いた急速な攻勢の後、シリア反体制派はダマスカスに入り、バッシュール・アル・アサド政権の終焉を宣言した。シリア大統領とその家族は、反政府勢力が首都に入る直前に、未知の方向へ逃亡したとみられる。

アサド一族による半世紀に及ぶ統治を終わらせたシリア政府に対する反乱は、第二次世界大戦の終結と1948年のイスラエル建国以来、現代アラブ地域における最も重要な政治的転換点の一つとみなされるべきである。これは、1950年代以来、長らくアラブ社会を支配し、荒廃させてきた軍部を基盤とするアラブ独裁者の遺産との決定的な決別を意味する。

アサド政権の打倒を多くの人が当然のように祝う一方で、シリア国内のさまざまな地域および外部勢力の関与を考えると、次に何が起るのかと疑問に思う人も多い。シリア国民は、まともな生活、敬意を持って扱われること、意見を聞いてもらうことを望んでいることを知っている。私たちは、彼らが自国に新たな安定した秩序をもたらすのを謙虚に見守り、ひげの長さが何を意味するかを分析したり陰謀説を抱いたりする西側諸国の愚かな行為をやるべきである。

シリア統治と内戦の悲惨な物語が何を意味するのかを

振り返ることは今や極めて重要です。アサド政権下のシリアは、特異なものでもなければ、地元の少数の暴漢の仕業でもありません。むしろ、それは、地域や大国、さまざまな非政府グループの助けを借りて、半世紀にわたってこの地域を荒廃させ、人々を貶めてきた、高圧的でしばしば残忍なアラブ国家権力の広範な遺産の一例です。

アサド政権は、アラブ地域を支配した、軍事ベース、外国の支援を受け、家族を基盤とする独裁政権として最も長く存続し、その人々、経済、国家の統一を破壊しました。

シリアでの経験は、広く残っているアラブの独裁政治の衰弱させる特徴をすべて明らかにしており、私たちの社会から体系的に根絶する必要があります。これには、信頼できる参加型機関による真の多元主義と説明責任の欠如が含まれます。軍と警察の残虐行為、大量投獄、拷問、死に根ざしたトップヘビーな統治、エリート層に腐敗を生み、国中にある生活の質の大きな格差を生み出す中央集権的な経済計画、そして統治される者の同意と意志を反映する政策を生み出すことができるような国民と国家の構造的なつながりがありません。

1952年のガマル・アブドゥル・ナーセルによるエジプト革命は、軍によるアラブ統治の破壊的な遺産の始まりとなり、1967年にイスラエルがアラブ軍を打ち負かした後、その遺産はより急速に拡大しました。バッシュール・アル・アサドの父、ハーフェズは、その後20年間にさまざまなアラブ諸国で権力を掌握し、それらを破滅に追い込んだアラブ将校の集団の1人でした。

これらの自称官僚たちは、数十年にわたる統治の間、戦争を遂行することも、効果的に統治することもできなかった。その結果、1990年代以降、少数の裕福な石油生産国を除くほとんどのアラブ人は、まともな教育や医療、仕事、十分な食料、水、電気、その他の基本的な必需品へのアクセスの機会が着実に減少している。

地域調査では、アラブ人のごく一部（主に石油生産国とその他の少数のエリート層）が快適な生活を送っている一方で、大多数は政治的権利もまともな物質的生活も享受していないことが繰り返し明らかにされている。アラブ社会における不平等と貧困は増加し続けている。

アラブ政府は抑圧を通じて、国民を受動的で声を上げられない無力な消費者に変え、その多くは移住を希望するか、実際に移住している。抑圧は国民の間に激しい怒り、恐怖、絶望を生み出した。国民は国家に異議を唱え、その腐敗したシステムに加わり、あるいは国家から撤退してより小さな組織に身を投じることでこれに対処してきた。彼らは、自国、イスラエル、または外国勢力からの危険に直面して自らを守り、生き残るために、イスラム教、宗教、またはイデオロギーのグループを形成します。

軍事化された権力モデルに挑戦した最も強力なアラブ運動は、武装したものと平和的なものの両方のイスラム主義でした。シリアでは、平和的な抗議運動が残忍な軍事力に直面したとき、蜂起はすぐに内戦に変わり、国家の結束を弱め、武装グループの増殖を許し、外国勢力の

干渉を招きました。

シリアで起こったことは、すべてのアラブ独裁者にとって警鐘となるはずですが。この地域は、憲法または選挙手段を通じて国民によって確実に承認されたアラブ国家が1つもないという現実に関わりなく耐えることはできません。

私は半世紀以上にわたりアラブ社会と国民の状況を経験し、ジャーナリストとして記録してきましたが、安定した国家、真の主権、市民権、持続的で公平な人間開発という4つの基本的なテストに合格したアラブ国は1つもないという結論に達しました。

シリアが世界に発信している、一般市民の自由と尊厳の中で生きようとする不屈の意志に関するシグナルを見逃すのは愚かなことです。そして、国民のほとんどを失望させてきた既存の国家と経済システムで従来通りのやり方を続けるなら、アラブ人にこれらの意志を否定することに加担することになります。

ラミ・G・コウリ

ベイルート・アメリカン大学の著名な研究員

ラミ・G・コウリはベイルート・アメリカン大学の著名な研究員であり、ワシントン・アラブセンターの非常勤シニア研究員です。彼は中東を取材して50年の経験を持つジャーナリストであり、本の著者です。



2024年11月26日 記事、論評

イラン・パペ著 - パレスチナクロニクル

はい、西側諸国の右翼とファシスト勢力の台頭がパレスチナの進展を遅らせていることは承知しています。しかし、パレスチナ人はこのファシズムの潮流に対抗する強力な世界同盟の一部です。

過去1年間に歴史的なパレスチナで起こったことの多くは予測可能でした。

理解できないのは、毎日テレビで放映される大量虐殺に対するヨーロッパ諸国の無関心だ。大量虐殺は、その発生、残虐性、非人道性について誰も疑う余地がないほど生々しく詳細に描かれている。

「文明国」の一員であると自認する国々が公然と犯した人道に対する罪に対するこの無関心は、部分的にしか

説明できない。

鍵となるのは、イスラエルへの武器販売に部分的な制限を課す意思を示し、パレスチナを承認した国々を調べることだ。

予想通り、こうした行動はイスラエルに何の影響も与えていない。より積極的な国々の措置でさえ、無意味であることが証明されている。この効果のない対応の主な理由は、これらの政府が誤った前提とパラダイムの下で活動し続けていることだ。

これらの政治家や外交官の多くは、せいぜい自分たちを平和仲介者とみなしており、しばしばアメリカ人の二次的な役割を果たしている。時には彼らが主導権を握ったこともある。1948年以前は、国際正義の代表として、英国が平和仲介を支配していた。1967年6月、英国とフランスは安全保障理事会決議242に尽力しました。

1993年にはノルウェーがオスロ合意を主導しました。

この種の和平仲介の本質は、イスラエルが領土や支配に関して最大限の譲歩をいとわないかどうかを特定し、その条件をパレスチナ側に押し付けることです。オスロ合意の前後を問わず、和平仲介者は、これらの限定的な譲歩でさえ、長年の占領と抑圧によって弱体化したパレスチナの指導者には受け入れられないことに気付きました。

今では、この方式が機能しないことは明らかです。しかし、「デイ・アフター」に関する唯一の会話は、この時代遅れで無関係なパラダイムに基づいています。

しかし、民族浄化と大量虐殺を効果的に可能にするパラダイムに固執するという国際社会の主張に異議を唱えることを目的としたいくつかの取り組みがあります。私はそのような取り組みを2つ紹介します。これらの取り組みは、パレスチナ活動家がデモ、野営、記事の執筆、ボイコットの実施に満足しているわけではないことを示している。むしろ、彼らは現場での大量虐殺政策を阻止するという緊急の必要性に対処するために、常に新しい戦略と新しい行動様式を模索している。

「オスロ対話」

1つ目はパレスチナに関する「オスロ対話」であり、ガザと南レバノンで活動を続ける有名なノルウェー人医師、マッツ・ギルバート氏を含むグループが先頭に立っている。この取り組みは、1993年のオスロ合意を修正することを目指している。オスロ合意は、多くのパレスチナ人が西側諸国の最大の裏切りの1つと見なしているプロジェクトである。オスロは平和を達成するどころか、イスラエルの占領をより経済的で受け入れやすいものにした。

この新しい取り組みは、ノルウェー政府と社会を平和仲介者としてのうぬぼれた役割から解放することで、「オスロ」の遺産を再構築することを目指している。その代わりに、ノルウェーにパレスチナ人の権利の擁護者として行動するよう求めている。この変化は、ノルウェーを解決策を提案する存在から、パレスチナ人の解放闘争に完全かつ無条件に連帯を示す勢力へと変えるだろう。

ノルウェーの石油会社が占領下のヨルダン川西岸地区を含むイスラエル企業に数百万ドルを投資し、政府が米国の対イスラエル政策に従っているにもかかわらず、ノルウェーは言葉だけでなく意味のある行動を通じて連帯を示すことができる。

「ガザ法廷」

パレスチナ・クロニクル紙が報じたように、2つ目の取り組みはガザ法廷である。著名な国際法学者のグルー

プが、国際法曹界をパレスチナ問題により効果的に関与させる方法を模索している。

彼らの目標は、イスラエルの破壊的な政策を終わらせ、ガザの再建を可能にすることである。この取り組みは、数年前に公開セッションを開催し、活動家、元外交官、学者、国際法学者の参加を得てイスラエルの占領犯罪を暴露したラッセル法廷を彷彿とさせる。

これらの取り組みや同様の取り組みがどれほど成功するかを予測するのは難しい。しかし、それらは聞くべき緊急のメッセージを送っています。

これらの取り組みは、西側諸国やそれ以外の国々の主流メディアや政治的物語を拒否している。これらの取り組みの参加者は、パレスチナの現実を植民地主義者とイスラエル人の平等とみなすことを断固として拒否している。彼らはまた、オスロ合意の中心であり、国際法の専門家にとって依然として神聖視されている二国家解決の議論も拒否している。

政治エリートや主流メディア、さらにはマイナーな人物までもこれらの取り組みに取り込むことは、イスラエルの現在の政策を阻止するために不可欠だろう。これには、純粋主義ではなく、より実用的なアプローチが必要であり、長期的なパートナーとしては理想的ではないかもしれないが、より良い未来を想像するための即時の取り組みに貢献できる同盟国を探す必要がある。

新たな機会

UAWC 寄付するには

BAN (国際口座番号) ES41 1550 0001 2800 0113 1721

BIC/SWIFT: ETICES21XXX

受益者: Bizilur, Asociación Para la Cooperación y el Desarrollo de los Pueblos (Bizilur、人民協力開発協会)

住所: C/ Cardenal Gardoki 9 - 5o Dcha

都市: ビルバオ

重要: 寄付には税制上の優遇措置があります。

Bizilur Asociación Para La Cooperación Y Desarrollo de Los Pueblos への寄付は、個人所得税 (IRPF) の税控除の対象となります。ご質問がございましたら、(+34) 94 433 88 17 または Palestina@bizilur.org までご連絡

اتحاد لجان العمل الزراعي
Union of Agricultural Work Committees



2025年に明らかになるであろう厳しい現実を考えると、このような実用主義を採用することは不可欠である。ドナルド・トランプの再選で勢いづいたネタニヤフ政権は、その計画を公然と議論してきた。これには、ガザ北部から南部にかけてのパレスチナ人の民族浄化、これらの地域へのユダヤ人の定住、そしてガザ南部での人々が立ち去らざるを得ないほどの密集した生活環境の創出などが含まれる。ネタニヤフ首相はまた、ヨルダン川西岸地区の併合を誓い、B地区とC地区のパレスチナ人をA地区に押し込むと宣言した。

状況は厳しいが、新たな行動の機会も生まれている。ますますファシスト化するイスラエル政府の行動は、ドイツ、イタリア、アメリカの政権など、これまでは入り込めなかった地域にまで、パレスチナに対する世界的な連帯を広げることが容易にできるかもしれない。

しかし、新たな行動の機会を生み出すのは、この新たなファシストイスラエルだけではない。それは、長年にわたる連帯運動の累積的な影響からも生まれる。

歴史は、持続的な活動が、たとえその影響が今のところは見えなくても、予期せず現実に影響を与える可能性があることを私たちに教えてくれる。パレスチナとの世界的な連帯運動の計り知れない不断の努力は、いつの日

かイスラエルの免責の盾を突き破り、特にガザのパレスチナ人の苦しみを和らげるかもしれない。

明らかなのは、これらの努力を2倍、3倍にし、前述のような新しい取り組みを伴わなければならないということだ。

はい、西側諸国における右翼やファシスト勢力の台頭がパレスチナ問題への進展を遅らせていることは承知しています。しかし、パレスチナ人はこのファシズムの潮流に対抗する強力な世界同盟の一員です。この同盟が成功するたびに、パレスチナ解放に近づくことができます。

- イラン・パペはエクセター大学の教授です。以前はハイファ大学で政治学の上級講師を務めていました。著書に『パレスチナの民族浄化』、『現代中東』、『現代パレスチナの歴史：一つの国、二つの民族、イスラエルに関する10の神話』があります。彼はラムジー・バルードとともに『解放への私たちのビジョン』の共同編集者である。パペは、1980年代初頭に英国とイスラエルの政府文書が公開されて以来、1948年のイスラエル建国の歴史を書き換えてきたイスラエルの「新歴史家」の一人と評されている。彼はこの記事のパレスチナ・クロニクルに寄稿した。

パレスチナ日誌

11月

11月1日

- ・ 占領軍がナブルス市の若者3人を逮捕
 - ・ イスラエル軍 シリア領内の無人機とレバノンから発射されたミサイルを迎撃
 - ・ ガザ地区における392日間の戦争： ペイトラヒアとヌセイラットで数十人の殉教者
 - ・ ジェニンの労働者5人がハデラで逮捕される
 - ・ イスラエルメディア ヨルダンからの侵入の疑いでエイラートの道路が閉鎖される
 - ・ イスラエルで最も血が流れた月 昨年10月、88人の兵士と入植者が殺害される
 - ・ イスラエル軍が、ガザでの負傷による“Givati”旅団の部隊長の死亡を発表。
 - ・ ガザの保健省： 24時間以内に3つの虐殺で55人の殉教者
 - ・ うち1人が重体 レバノンから発射されたロケット弾によりイスラエル人9人が負傷
 - ・ ハマスが一時停戦提案を拒否、侵略停止と包囲網解除の条件を主張
 - ・ イスラエルによるレバノン東部バールベック空襲で12人が殉教
 - ・ イスラエルによるペイトラヒア・プロジェクト地域への爆撃で5人が殉教
 - ・ アル・カッサム ジャバリアで12人の兵士が立てこもる家を攻撃した
 - ・ 占領軍、デイル・イステイヤのアル・カダからオリーブ摘み取り作業員を追放し、軍事封鎖区域と宣言
 - ・ ガザでポリオ予防接種キャンペーンの第2段階が始まる
 - ・ イスラエル軍、ガザでハマスの指導者イズ・アルディン・カサブの暗殺を発表
- 11月2日戦争の393日
- ・ 84人の殉教者 - 占領軍はガザ地区北部の住宅を爆撃し、2つの虐殺を行った。
 - ・ ハマスとファタハの代表団、カイロでガザ行政と停戦交渉について協議
 - ・ : ジャバリアとヌセイラットで数十人の殉教者と虐殺が発生
 - ・ レバノンから発射されたロケット弾により、アクレ、ナハリヤ、ハイファ湾で爆発が起きた。
 - ・ 占領軍がヒズボラ沿岸部司令官暗殺を発表

- ・ ヒズボラ ハイファ北部のキルヨット地区をロケット弾で空爆した
- ・ イラクのイスラム抵抗勢力 我々はエイラートの4つの重要な標的を攻撃した
- ・ 3旅団 - 占領軍はジャバリアで作戦を拡大
- ・ ガザの保健省： 24時間以内に7つの虐殺で55人が殉教した
- ・ ヒズボラ、レバノン南部国境のイスラエル軍“ラムミ”兵舎を標的に
- ・ アル=カッサム旅団、ジャバリアキャンプ西のイスラエル軍を標的にすると発表

- ・ イスラエル軍 海軍特殊部隊がバトルーンに上陸し、ヒズボラ幹部を逮捕した。
- ・ イスラエル、ヒズボラのミサイル部隊司令官暗殺を発表

11月3日

- ・ イスラエル人囚人の家族、ネタニヤフ首相から交渉権を取り戻すように要求
- ・ 占領軍のレバノン侵攻による殉教者は2968人に上る
- ・ 戦争394日：ヌセイラットとジャバリアで数十人の殉教者と数百戸の家屋が破壊される
- ・ イスラエル、レバノンからハイファ湾に向けて発射されたミサイル10発を探知したと発表
- ・ ヒズボラ 我々はいくつかの入植地で占領軍兵士の集まりを標的にした

11月4日戦争394日

- ・ 占領軍、バールベックとドゥリスの住民に避難勧告
- ・ ヒズボラ マトゥーラに集結した占領軍を2度目のミサイルで攻撃した
- ・ 占領軍がシリア国境内で特別作戦を実施、市民を逮捕
- ・ 占領軍は市民を虐待し、デイル・イステイヤ市長宅を襲撃した
- ・ アルビレで入植者が車両20台を焼却
- ・ イスラエル 国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）との関係断絶を公式に国連に通告した。
- ・ 占領軍がヒズボラの現場指揮官を暗殺したと主張
- ・ : ヌセイラットとジャバリアで数十人の殉教者と数百戸の家屋が破壊される
- ・ ヒズボラ サフェド市をミサイルで攻撃した
- ・ 占領軍はレバノンから発射された約25発のミサイルを監視している。
- ・ ヒズボラ 我々は「メロン」基地と「ナハリヤ」入植地を標的とした
- ・ ガザの保健省： 24時間以内に3つの虐殺で33人の殉教者
- ・ 占領軍機がガザ地区各地への爆撃を再開
- ・ イスラエル軍がレバノン南部のメイズ・アル・ジャバルの地区全体を爆破した。

11月5日戦争396日：

- ・イスラエル軍 開戦以来 5,261 人の将校と兵士が負傷
- ・ガラント、ハレディムに 7000 人の追加徴兵命令を承認
- ・国連：ガザでのポリオ予防接種キャンペーン、数千人に行き渡ることなく終了
- ・ガザの避難民の家やテントを狙ったイスラエル軍の爆撃で 29 人が殉教
- ・ナブス南部のマダマ村を占領軍に連れられた入植者が襲撃
- ・ペイトラヒアでの数十人の殉教者と、ガザ地区中央部とハーンユニスへの空襲
- ・クネセト、政治的立場を表明したアラブ系教師の解雇を認める法律を承認
- ・ヨルダン川西岸における人民戦線幹部の逮捕キャンペーンと、レバノンの人民戦線メンバーを標的にした逮捕キャンペーン。
- ・イスラエル軍がレバノンから旅団を撤退させるも、侵略は数週間続く
- ・100 人以上の患者がガザから移送され、UAE とルーマニアで治療を受けることになる
- ・シルワンのアル・プスタン地区で 7 軒の家屋が取り壊される
- ・彼らは旅行のための通路を開くよう訴えている：ガザの学生は海外での奨学金を失う危機にある
- ・WHO 100 人以上の患者と負傷者をガザから避難させる
- ・エルサレム州 占領軍は、アル・プスタン地区を空にするため、家屋の取り壊しと土地の平坦化を続けている。
- ・ヒズボラ、イスラエルの入植地と軍事施設を標的に

11月6日戦争 397日

- ・インドのイスラム教徒、政府の“イスラエル”支援を拒否
- ・世界 52 カ国がイスラエルへの武器禁輸を要請
- ・ドナルド・トランプ 第 47 代アメリカ合衆国大統領に
- ・数十人の殉教者とペイトラヒアからの砲撃による避難の波
- ・占領軍がガザ地区に投下した爆弾は 8 万 5 千トン以上。
- ・ネタニヤフ首相：トランプ大統領の復帰は、イスラエルとアメリカの偉大な同盟関係の強力な回復である。
- ・テルアビブとベングリオン空港へのロケット砲撃
- ・ヒズボラ 我々は「ナハール・ギール・シヨム」本部を標的にし、標的を正確に射抜いた
- ・モシャヴ・アヴィヴィムに落下したロケット弾により 4 人が負傷

11月7日戦争 398日

- ・ヒズボラ 我々はゴレン、バルヨハイ、カツツリンの入植地をロケット弾の一斉射撃の標的とした。
- ・イスラエル・クネセト、襲撃犯の親族を国外追放する法律を可決
- ・数十人の殉教者とストリップの市場への攻撃
- ・イスラエル、新型 F15 戦闘機 25 機購入契約に調印
- ・ペイトラヒアとジャバリアへの激しい襲撃、ヌセイラトとラファへの砲撃が再開された。
- ・7 人の殉教者と破壊... 占領軍、ヨルダン川西岸北部への軍事攻撃の終結を発表
- ・ヒズボラがハイファとアクレに向けてロケット弾を発射

11月8日戦争 399日間の戦争

- ・WHO ガザ地区における予防接種キャンペーン第 2 期終了
- ・エルサレムでの外相警護襲撃事件を受けてパリがイスラエル大使を召喚
- ・数十人の殉教者、家屋、避難所、漁民の標的化
- ・イスラエル軍：レバノン南部から 1 時間に 20 発のロケット弾発射
- ・イスラエル軍、“イエメンから発射された”ミサイルの迎撃を発表
- ・イスラエル軍、正規・予備兵のオランダ渡航禁止を決定
- ・ガザの健康：占領軍は 24 時間以内に 3 件の虐殺を行い、39 人の殉教者と 123 人の負傷者を出した。
- ・レバノン南部への空襲とレバノンからのロケット弾発射
- ・ガザで殉教したジャーナリストの数は 184 人に上る

11月9日戦争の 400日

- ・ガザ地区の避難民のテントや複数の場所への爆撃における殉教者たち
- ・レジスタンスは、ガザ地区北部と中央部における占領の仕組みと勢力を標的にしている。
- ・マールブ：イスラエル軍は戦争中に約 2 個師団を失い、数千人の兵士が不足している。
- ・イスラエルの攻撃はアレppoとイドリブの郊外を標的にした
- ・イラク抵抗軍、北部のイスラエル標的を攻撃
- ・数十人の殉教者 Beit Lahia と Khan Younis の避難民テントへの集中的な襲撃
- ・ヒズボラ 我々はハイファ北部のゼブロン基地を爆撃した
- ・イスラエル：援助物資を積んだトラック 11 台がジャバリアとペイト・ハヌーンに入る
- ・ヒズボラ 我々はディルシランで [ホルムズ 450] ドロオンを撃墜した
- ・レバノンからロケット弾が発射され、ガリラヤを標的にした。

- ・ガザ政府 侵略開始以来 53,552 人の殉教者と行方不明者
- ・世界中の都市や首都で、ガザ地区への侵略を非難するデモが行われた。

11月10日戦争の 401日

- ・アル・アクサ殉教者病院 本日の病院爆破で 3 人の殉教者と数十人の負傷者
- ・レジスタンスがガザ北部で占領軍の車両を標的に... “キスフィム”へのミサイル攻撃を開始
- ・イラク レジスタンスが南部のイスラエル軍標的を攻撃
- ・数十人の殉教者... ジャバリア・アル・パラドでの虐殺と拘束者の暗殺
- ・UNRWA 委員：ガザ北部で飢饉の可能性、イスラエルは飢饉を武器にする
- ・アル・カッサム 我々はイスラエル軍と衝突し、死傷者を出した
- ・レバノンから発射されたロケット弾によりナハリヤで 2 人が負傷
- ・アル・カッサム 我々は 15 人の兵士を殺害し、装甲兵員輸送車 2 台と軍用ブルドーザーを標的にした。
- ・ガザ地区への空襲が再開され、ジャバリアの虐殺の殉教者数が 36 人に増加
- ・アル・カッサム 我々は『ネツァリム』軸でイスラエル軍を攻撃した
- ・メトゥーラに発射された対戦車ミサイルでイスラエル人 2 人が負傷
- ・シリア国防省：イスラエルの攻撃で民間人 7 人死亡、20 人負傷

11月11日 402 日間の戦争

- ・指導者ヤセル・アラファトの殉教から 20 年
- ・占領軍、アルクツ旅団司令官 “モハマド・アブ・サヒル”の暗殺を発表
- ・イスラエル軍：死海上空でドローンを迎撃
- ・イエメンからロケット落下 ヨルダン川西岸でサイレンが鳴り響き、ペイト・シエメシュで火災が発生
- ・数十人の殉教者... ヌセイラットへの激しい砲撃とジャバリアへの連続空襲
- ・フーシ 我々はハイファ近郊のナハル・ソレク基地を標的とした
- ・レバノンからカルミエルに向けて発射されたロケット弾により 3 人が負傷
- ・イスラエル、ネゲブのアラブ人村アルアラキブを 232 回目の取り壊し
- ・占領軍はガザ地区でギャングが援助物資輸送車を略奪するのを許している
- ・ハイファとその地方に向けた大規模なロケット弾の乱射、砲弾の落下、車両の炎上
- ・ヒズボラ ロケット弾でシュラガ基地、クリオット地区、ゾボロン基地を攻撃

11月12日 403 日間の戦争

- ・アラブ・イスラム首脳会議の最終声明、イスラエルへの武器禁輸を要求
- ・イスラエル軍、エイラート上空でのドローン迎撃を発表
- ・ワシントンがシリアの標的を爆撃 “イランのグループと関係”
- ・ヌセイラートとカーン・ユニで数十人の殉教者、ガザへの集中爆撃
- ・ネタニヤフ首相は、トランプ氏が大統領に就任するやいなや、ヨルダン川西岸にイスラエルの主権を押し付けることを提案するだろう。
- ・アル・カッサム 我々はジャバリアキャンプで兵士 10 人を殺傷した
- ・イスラエルは、ガザへの人道援助物資を運ぶため、初めて「キスフィム」交差点を開設した。
- ・国連：イスラエル、ガザ北部への援助輸送の 85% を妨害
- ・ヒズボラ 我々は “クファル・ユヴァル”の入植地を標的にした
- ・イスラエルはガザへの人道支援を拡大すると主張
- ・UNRWA：ガザへの人道援助、過去数カ月で最低レベルに
- ・占領軍、レバノンでの地上作戦の第 2 段階を開始
- ・フーシ 紅海で米駆逐艦 2 隻を標的にした
- ・米国の援助団体 イスラエルはガザで飢饉に近い状況を引き起こしている
- ・占領軍によるガザ市とハン・ユニス市への空爆による殉教者と負傷者

11月13日戦争の 404日

- ・安保理、ガザ地区の壊滅的状況と飢饉のリスクについて討議
- ・ペイト・ラヒアとアル・ヌセイラート・キャンプの 2 軒の家屋を標的とした占領による殉教者と負傷者
- ・トランプ大統領、駐イスラエル大使にマイク・ハッカビーを指名
- ・レジスタンスが “ガザ包囲網”の入植地を砲撃... ジャバリアとペイトラヒアではミサイルによる質的作戦を展開
- ・無人機で... イラクのレジスタンスがイスラエルの標的 2 つを攻撃
- ・数十人の殉教者とペイト・ハヌーンの避難所からの避難
- ・駐イスラエル米国大使 ヨルダン川西岸を併合する可能性は間違いなくある
- ・イラン 「トランプとの交渉後までイスラエルへの対応を延期
- ・エルドアン：イスラエルとの貿易と関係を断ち、パレスチナに協力する
- ・アル・カッサム 我々は “ネツァリム”の占領軍を標的にした
- ・ハン・ユニスへの激しい空襲と、ガザとペイトラヒアへの砲撃の継続
- ・ヒズボラ テルアビブの陸軍省本部、参謀本部、戦争管理室を狙った
- ・レバノンの保健省 侵略開始以来 3365 人の殉教者

オリブの会通信 第49号(通巻55号)

11月14日

- レバノン南部でイスラエル軍将校6人が死亡
- 国連、「パレスチナ領土におけるパレスチナ人の恒久的主権」と題する決議・イラクのイスラム抵抗勢力 我々はエイラートの重要な標的を攻撃した
- ヘブライ語新聞 イスラエル軍はレバノン南部に緩衝地帯を設置する準備を進めている。
- 米中央軍 フーシ派地域への空爆を行った
- ガザ- 数十人の殉教者、ジャバリアの家屋爆撃、ペイトラヒアの処刑
- 占領軍: ガザ地区とレバノンで100以上の標的を攻撃した
- 24時間で24人の殉教者、ガザ戦開始以来43,736人
- クネセト、パレスチナ国旗禁止法を審議
- 占領軍、ハレディムに7000人の採用通知を出す
- イスラエルによるダマスカス攻撃で15人が殉教
- 追跡40分後 マーチがエリヤキム基地を直撃、負傷者が出る見込み

11月15日

- 雑誌 イスラエル、ガザ北部からの食料の輸入を1ヶ月間禁止
- ガザ地区における406日間の戦争: 中部とガザ地区で数十人の殉教者
- イスラエル国防相、ハレディムへの7,000人の徴兵命令を認めることを決定
- ロケット弾5発発射 ハイファの建設現場直撃、外国人労働者3人負傷
- 占領軍、ケレム・シャローム検問所付近で囚人20人を釈放
- イスラエル: ガザ地区南部のナセル病院に1000人分の血液を提供
- ガザ地区で24時間に28人の殉教者と120人の負傷者
- カッサム、ペイトラヒアとジャバリアキャンプでイスラエル軍車両を標的に
- 本日未明からガザ地区で37人の殉教者

11月16日/パレスチナ戦争407日

- 占領軍によるガザとラファへの空襲で11人が殉職、数十人が負傷
- レバノン南部のUNIFIL本部に砲弾が落ちた。
- ヒズボラ、ハイファ南部の軍事基地「エリアキム」を爆撃
- ナブルス東部で入植者が民家を襲撃し、車両を燃やす
- イラクのイスラム抵抗勢力がエイラートの“重要な標的”を攻撃
- ヒズボラ、ハイファの戦略基地をロケット弾で攻撃
- ガザで1日に35人の殉教者
- カン・ユニ自治体 燃料供給停止後の災害拡大の警告
- イスラエルによるレバノン空爆で救急隊員2人が死亡
- レポート 占領軍はガザ北部で野外処刑と強制移住を実施
- 占領軍がレバノンの15の村の住民に立ち退きを勧告
- イタリア、ガザに15トン以上の人道支援物資を送る
- ガザの抵抗勢力は、ガザに隣接する入植地に向けてロケット弾を発射した。
- 新たな虐殺 アルシャティキャンプの避難民を保護する学校爆撃による殉教者と負傷者
- 世界中の都市や首都で、ガザ地区への侵略を非難するデモが行われた。
- イスラエルで“囚人取引の妨害”に抗議するデモが行われる

11月17日・パレスチナ戦408日

- イスラエルによるガザ地区空襲で27人が殉職
- ジャーナリスト、モハメド・アル＝シャリフがジャバリア・キャンプで占領軍の行進の銃弾により殉教した。
- 建物が撃たれた... レバノンからハイファへの強力なロケット弾攻撃
- 占領軍がアル・ヌセイラート・キャンプの西にある民家を爆撃し、3人の女性と子ども1人が死亡した。
- アル＝カッサム旅団がジャバリア・キャンプでのイスラエル軍との戦闘シーンを放送
- カエサリアのネタニヤフ首相宅周辺での治安維持事件の疑い
- ヒズボラ、イスラエル軍基地5カ所への空爆を発表。
- イスラエル軍 ベイルート南郊のヒズボラ標的約50カ所を攻撃した
- ネタニヤフ首相宅で発炎筒を発砲した疑いで3人を逮捕
- 新たな大虐殺-ペイトラヒアの避難民宅を標的に50人以上が殉教
- ペイトラヒアの虐殺 犠牲者の30%は子供
- イスラエル軍、レバノン南部の15町の避難を要求
- ガザでの占領軍による虐殺の犠牲者は、今日96人に上った。
- ガザで24時間に47人の殉教者
- カッサム、アル・ブレイジ・キャンプ東のイスラエル軍車両を標的に
- ヒズボラ・メディア関係者がイスラエルのベイルート空襲で暗殺される
- ヒズボラ ロケット弾でマアロット・タルシハを標的にした
- フーシ派、ヤッファとアシュケロンを無人機で攻撃すると発表

11月18日

- 占領軍、ベデュエル入植地拡張のためカフル・アディクの土地9ダンの没収を決定
- イラクのレジスタンスが無人機でエイラートを爆撃
- ナブルスで衝突、占領軍はヨルダン川西岸での襲撃・逮捕作戦を開始
- スモトリッチがガザ占領とレバノン戦争継続を要求
- アル・カッサム 我々はガザ北部の砲弾で12人のイスラエル軍兵士を攻撃した。
- ガザで1日に76人の殉教者
- ガザ北部の市民7万人が飢えと渇きで死の危険にさらされている
- カマル・アドワン病院院長 ガザ地区北部は1ヶ月以上包囲されており、援助はない。

11月19日/パレスチナ戦争410日

- 米国がイスラエルの組織と入植者に制裁を科す
- ヒズボラのミサイルによりテルアビブでイスラエル人5人が負傷、1人が重傷
- エイラートとハイファでドローンの懸念からサイレンが鳴り響く
- 占領軍のベイルート空襲による殉職者5名、負傷者24名
- 占領軍: レバノンからイスラエル中部に向けて数発のロケット弾が発射された。
- イスラエル警察、ティベリアとその周辺でヨルダン川西岸地区の労働者20人を逮捕
- ヨルダン川西岸でイスラエル軍と入植者によって殉教した171人の子どもたち
- パレスチナ高官 ガザのギャングに関与する商人との取引や援助に警告を発する
- フーシ派 我々は弾道ミサイルと海軍ミサイルで紅海の船を狙い、直接命中・ユニフィル、レバノン南部で兵士4人が負傷したと発表
- ヒズボラ レバノン南部での地上作戦開始以来、我々は110人のイスラエル兵を殺害した

11月20日戦争の411日

- レバノン軍が占領地襲撃で兵士3人の殉教を発表
- ラマツラ北部のアル・マズラア・アル・ガルビヤの町で、入植者が市民の車を燃やす。
- 数十人の殉教者と民間防衛サービスの停止
- イスラエルは決断した: 軍は今後数年間、ガザに駐留する。
- イスラエル占領軍は、ガザ地区南部のケレム・シャローム交差点から6人の囚人を釈放した。
- イラクのイスラム抵抗勢力 占領地北部の軍事目標を攻撃した
- ヒズボラ 我々はキアム市南部の兵士の集まりを標的とした
- シリアの都市パルミラに対するイスラエルの攻撃で36人が死亡、50人が負傷

11月21日戦争412日

- アメリカがガザ停戦に“拒否権”を行使
- ヒズボラ、占領軍の集会をミサイルで攻撃
- ガザ地区北部と南部で数十人の殉教者と虐殺
- ファタハ ガザの軍閥は占領軍のパートナーだ

11月22日戦争413日

- イラクのヒズボラ イスラエル南部の「軍事目標」を攻撃した
- 殉教者4万4千人超
- イスラエル軍、レバノン南部の3村の住民に即時避難命令
- イスラエル軍のガザ地区空襲で少なくとも12人が殉教
- イスラエル軍、ベイルート郊外の新エリア攻撃に備え警告を発出
- 夜明けから... イスラエルによるガザ地区数カ所への空襲で25人が殉職
- ヒズボラ、マナラ入植地の占領軍の集結を狙う
- ヒズボラ、戦車破壊とイスラエル軍機との対決を発表
- 国連: 2024年、ガザ侵攻により援助活動家にとって最悪の年となる
- レバノンのUNIFILでイタリア兵4人が負傷
- 占領軍によるガザ、ラファ、アル・ブレイジ・キャンプへの空襲で6人が殉職
- 過激派大臣ベン・グヴィール、ヘブロンイブラヒム・モスクを襲撃
- ガザの民間防衛 占領軍は意図的にガザ地区北部から市民を追い出している
- イスラエル軍ラジオ レバノンから20分以内に30発のロケット弾が発射された
- ナブルス南部のオサリンで、占領軍が救急隊員を襲撃し、救急隊員を逮捕した。

11月23日414日間のパレスチナ戦争

- ラビッド 政府はネタニヤフの問題のために不必要に戦争を長引かせている
- レバノン東部でイスラエル軍の砲撃により病院長と同僚6人が死亡
- ガザ市、ヌセイラット、カーン・ユニスキャンプの家屋が標的となり、殉教者と数十人が負傷した。
- ベイルート: イスラエル軍の住宅襲撃で殉教者と負傷者
- 空爆に備え、占領軍はベイルート南郊の地域を避難させると脅している。
- 占領軍は先週、人道援助の3分の2がガザに届くのを妨げた。
- カマル・アドワン病院付近の襲撃で2人の殉職者と負傷者

- ・ペイルートのアル・バスタ襲撃 イスラエル、ヒズボラ作戦部長を標的に
- ・ヒズボラ ハニータに集結した占領軍をロケット弾で攻撃した
- ・2年目のクリスマス・イベントは宗教的儀式に限定される
- ・ガザで48時間に120人の殉教者
- ・アル・カッサム 我々は“ライム”軍事基地を多数のミサイルで爆撃した。
- ・イスラエルによるペイルート南郊への空襲がエスカレート、死傷者と破壊が増加。
- ・ヘブライ語メディア ヒズボラ指導者、ペイルート襲撃で暗殺を免れる
- ・イスラエル、ガザ南部から発射されたロケット弾2発を迎撃したと発表
- ・世界中の都市や首都で、ガザ地区への侵略を非難する大規模なデモが行われた。
- ・シリア イスラエルの攻撃、ホムス地方のジュシヤ交差点を標的に
- ・レバノンの健康： イスラエルの侵略開始以来、殉教者3670人、負傷者15413人
- ・Axios ワシントンは、入植者の行政拘留を停止した後、暴力がエスカレートしているとイスラエルに警告した。
- 11月24日**パレスチナ戦争415日
 - ・占領軍がアル・ヌセイラト・キャンプの民家を爆撃した後、6人の殉教者が出た。
 - ・レバノン南部アルバヤダの町はずれで、ヒズボラとイスラエル軍が激しく衝突した。
 - ・ヨルダン川西岸北部のイスラエル軍ジープで爆発物を爆発させたアル・カッサム旅団の映像が公開された。
 - ・ガザ市東部のシュジャイヤ地区から数百人の市民が強制的に避難させられている。
 - ・イスラエル、レバノン南部の5つの町の住民に避難を要求
 - ・朝からヒズボラは60発のロケット弾を発射し、メトゥウラを集中的に攻撃した。
 - ・負傷者9名 - ヒズボラがテルアビブを数十発のミサイルで攻撃
 - ・ガザで1日に35人の殉教者
 - ・ガザ地区で数千人の避難民のテントが雨で浸水
 - ・イスラエル政府、ハアレツとの関係断絶に合意
 - ・ヒズボラ、西部ベカーでイスラエルの無人偵察機と対峙
 - ・数百万人が避難所に - ヒズボラ・ロケット弾でイスラエル中央部にも警備帯を
- 11月25日**416日間のパレスチナ戦争
 - ・イスラエル軍、レバノンのヒズボラ12本部を標的にすると発表
 - ・数百人が行方不明 - 占領軍、ガザの民間防衛活動を34日目も妨害
 - ・アル・カッサム 我々はベイトラヒアのアル・ハタバヤ通りでイスラエルの戦車を標的にした
 - ・ガザで1日に24人の殉教者
 - ・アル・カッサム 我々はアルクツ旅団と協力して、『ネツァリム』軸にあるイスラエル軍の指揮統制拠点を標的とした。
 - ・「メルカバを破壊し死傷者を出す」... ヒズボラ、イスラエルに対してこれまでに8回の質的作戦を実施
 - ・イスラエル軍、レバノンのヒズボラ標的25カ所への空爆を発表
 - ・イスラエルによるレバノン南部と東部への空襲で殉教者9名、負傷者4名
- 11月26日**417日間のパレスチナ戦争
 - ・イスラエルは4度目、ペイルート郊外の近隣から避難するようレバノン人に警告
 - ・イスラエルによるペイルート南郊への空襲再開
 - ・シリア イスラエル軍の爆撃により、ホムス地方のQusayr 地域にある複数の橋が標的となる。
 - ・イスラエルによるレバノン空襲で31人が殉教、64人が負傷
 - ・ナハリヤへのロケット弾発射で2人負傷
 - ・民間防衛：ガザ地区で雨により1万張りのテントが損壊
 - ・ヨルダン川西岸地区でのオリブ摘み取り労働者に対する407件の襲撃事件
 - ・占領軍がヨルダンとの国境に分離フェンス建設計画を開始
 - ・イスラエル北部で8000棟以上の家屋が倒壊
 - ・カッサム旅団がイスラエル軍のいるビルを爆破、死傷者を出す
 - ・占領軍、ペイルート郊外の自宅から避難するようレバノン人に警告
 - ・戦争が始まって以来、ガザでは1410世帯が市民登録から抹消された。
 - ・ガザの保健省：一日で14人の殉教者、開戦以来44,249人
 - ・アル・カッサム 我々はネツァリム軸の敵司令部を爆撃した
 - ・イスラエル軍、ペイルートの20の標的を“120秒以内”に爆撃すると発表
 - ・ハイファでレバノンからのロケット弾が爆発
 - ・占領軍による首都ペイルート空爆で7人の殉教者
 - ・イスラエル軍 我々は今日、レバノンの180の標的を攻撃した
 - ・レバノンから打ち上げられたドローンがハイファに墜落
- 11月27日**
 - ・占領軍はトゥバス市とファルア収容所を襲撃し続けている。
 - ・イスラエル・レバノン停戦合意のオースティン：これは歴史的な日である

- ・ベリ：レバノンはイスラエルによる侵略の影響を中和した
- ・ハマスがヒズボラを称賛：停戦に興味はあるが、タダではない
- ・ガザ地区の北部と南部で空襲が再開された。
- ・予備読会 - クネセト、地方選挙におけるアラブ系候補者の失格を承認
- ・レバノン軍、リタニ南方への展開を強化
- ・米国、イスラエルに6億8000万ドルの武器売却契約
- 11月28日**417日間のパレスチナ戦争
 - ・数十人の殉教者とベイトラヒアの新たな避難民
 - ・占領軍、レバノンの10の村の住民の帰還を脅す
 - ・UNRWA：ガザ地区北部の約7万5千人の生存環境が悪化
 - ・ガザ：栄養不良に苦しむ110万人の子どもたち
 - ・ヌセイラトへの継続的な砲撃と、ガザ地区の北部と南部での散発的な空襲。
 - ・停戦後初めて、戦闘機がレバノン南部のシドンを爆撃した。
 - ・フーシ 我々はガザ支援戦線を継続し、ヒズボラは戦争に勝利した
 - ・ハマス側は、イスラエルが一時的にでもフィラデルフィア回廊でのプレゼンスを維持する取引に合意することを検討している。
 - ・レバノン保健省 侵略開始以来、殉教者3961人、負傷者16520人
 - ・占領軍、ヨルダン川西岸地区で20人以上の市民を逮捕、金品や武器を没収
 - ・国際機関が明らかに：イスラエル、90発の核兵器を保有
 - ・シリア監視団 シリア北西部、シリア軍と武装勢力の衝突で200人以上が死亡
 - ・イスラエルとワシントンの取引が明らかに... パレスチナ国家への永久拒否権と引き換えに自治政府を支援
- 11月29日**420日間の戦争
 - ・数十人の殉教者とヌセイラトへの大規模な侵略
 - ・UNRWA：ガザは第二次世界大戦以来最も激しい砲撃を受けている
 - ・市民登録から1,410世帯が抹消：ガザ北部と中部への砲撃で殉教者と負傷者
 - ・イスラエル軍、レバノンの60以上の村への住民の南移動を禁止
 - ・テルアビブで囚人交換協定を支持する静かな抗議行動
 - ・犯人は殺害された。ヨルダン川西岸北部の銃撃作戦で入植者9人が負傷（写真）
 - ・ガザの保健省：過去24時間で33人の殉教者と137人の負傷者
 - ・入植者、ネタニヤフ首相にヨルダン川西岸での大規模軍事作戦の実施を要求
 - ・ヘブロン近郊でイスラエル軍に発砲
 - ・アリエル入植地作戦でイスラエル兵4人が負傷
 - ・ベイトラヒアの2つの虐殺で70人が殉教
 - ・ガザの保健省：イスラエル軍、ガザ地区北部で遺体を蒸発させる兵器を使用
 - ・ベツレヘム近郊でイスラエル兵を狙った銃撃事件が発生 - 数時間以内に3件発生
 - ・侵略開始以来、レバノンで3961人の殉教者
- 11月30日**パレスチナ戦争421日
 - ・イスラエル軍、照明弾を投下し、レバノン南部の拠点への攻撃を開始
 - ・ガザの避難民が住むアパート爆撃で殉教者9人
 - ・アレッポの半分が反体制派支配下に：シリア軍、市の入り口を閉鎖
 - ・ファタハとハマスの代表団がカイロ入り
 - ・継続的な停戦違反... イスラエル、レバノン人に対し、数十の村に帰還しないよう改めて警告
 - ・イスラエル軍 レバノン・シリア国境のインフラを攻撃した
 - ・この数時間で2度目 - 占領軍が東から飛来したドローンを迎撃
 - ・ガザ：19人の殉教者の命を奪った4つの大虐殺
 - ・ヤアロン イスラエルはガザ北部で民族浄化作戦を行っている
 - ・ジャバリアの市民集会に対する占領軍の爆撃による殉教者と負傷者
 - ・その最後の一人がママドゥー・カニタである。ガザ地区におけるジャーナリストの殉教者数は191人に上る
 - ・シリア軍 アレッポとイドリブの前線で武装勢力と衝突、数十人の兵士の命を奪った
 - ・占領軍はカフルハリスを襲撃し、市民を虐待し、彼の車を燃やした。

ガザのジェノサイド

12月21日

死者 45129人

負傷者 107338人

行方不明 11000人



愛するシリア

あなたは私の尊厳を回復し、私のアイデンティティを回復してくれました

愛するシリア

あなたは私の尊厳を回復し、私のアイデンティティを回復してくれました

戦争と闘争、傷のたいまつで

シリアは革命の道を照らします

愛する者よ

私たちの運河、ゴラン高原、空、そして大地

私たちの血が彼らを救い、私たちの英雄が彼らを守る

そして私たちの復活は偉大な栄光に向かって歩みます

私の帰還を約束し、私の尊厳を高め、アイデンティティを新たにします

戦争と闘争、傷のたいまつで

シリアは革命の道を照らします

愛する者よ

今、今、今、今

今私はアラブ人です

私は私の父の名にふさわしい者です

ショットガンの弾丸が誇り高き国家に自由をもたらします

愛する者よ

シリア、ああすべての革命家の道

ああ自由な者たちの城塞

善におけるあなたの偉大な忍耐発見

希望と意識に約束

あなたは私の尊厳を回復し、私のアイデンティティを回復してくれました

戦争と闘争、そして傷のたいまつとともに

彼女は革命の道を照らします

愛しい人よ

道はまだ終わっていません、アラブ主義

奪われた土地が戻ってくるまで

テントの中で、大惨事の子供が

「愛しいシリアよ」と呼んでいます

私の尊厳を回復し、私の自由を回復し、私のアイデンティティを回復してください

戦争と闘争、そして傷のたいまつとともに

彼女は革命の道を照らします

愛しいシリアよ

あなたは私の尊厳を回復し、私のアイデンティティを回復してくれました

愛しいシリアよ

あなたは私の尊厳を回復し、私のアイデンティティを回復してくれました

戦争と闘争、そして傷のたいまつとともに

彼女は革命の道を照らします

愛しい人よ

この歌は、シリアがアラブ民族主義の旗手として1973年の10月戦争を戦った時の愛国歌です。この歌はシリアを超えて、パレスチナ人たちも歌っていました。曲はyoutubeで Syria My Love で検索してください。

おいしいパレスチナ

フリーカ

フリーカの調理方法

フリーカは、レバント料理や北アフリカ料理に由来し、何世紀にもわたって中東料理の一部となっている栄養価の高い古代の全粒穀物です。

フリーカは、ラム肉入りスープやフリーカ入りチキン詰めや、このサラダのようなビーガン料理、野菜入りフリーカなど、鶏肉を使ったさまざまな料理に使われています。

米の代わりになる健康的なものを探しているなら、フリーカは素晴らしい選択肢です。フリーカを他の穀物と区別する点は、ナッツのようなおいしいほのかなスモーキーな風味と、大麦に似た噛みごたえのある食感です。そして最も重要なのは、健康上の利点が高いことです。フリーカはコンロで簡単に調理でき、他の穀物に似た他の料理と一緒に、サイドディッシュとして、またはスープやサラダに加えることができます。

フリーカは古代の食べ物と考えられています。このユニークな穀物は、レバント料理と北アフリカ料理に由来しています。緑のデュラム小麦から作られたシリアル的一种です。

小麦は、まだ柔らかくて緑色の早い時期に収穫されず。その後、穀物は乾燥され、火で焙煎され、皮を剥くためにこすられます（または磨かれます）。これが、ナッツのようなスモーキーな風味を与えます。この「こする」という意味のファラカのプロセスが、「フリーカ」の名前の由来です。

フリーカは、何世紀にもわたって中東料理の主食であり、その栄養価と独特の風味から、世界の他の地域でも人気が高まっています。

この多用途の穀物は、ピラフ、サラダ、スープ、シチュー、さらには朝食用シリアルなど、さまざまな料理に使用できます。調理時間は比較的短く、さまざまなレシピで他の穀物の栄養価の高い代替品として使用できます。

全体的に、フリーカは健康的で風味豊かな穀物の選択肢であり、スモーキーな味と歯ごたえのある食感で食事に独特のひねりを加えます。

この古代穀物は、最も栄養価が高く健康的な穀物の1つです。食物繊維が豊富で、玄米の3倍の食物繊維を含み、タンパク質、ビタミン、鉄やマグネシウムなどのミネラルを含むさまざまな栄養素が豊富です。フリーカ



はキノアや玄米よりもカロリーと炭水化物が低く、タンパク質も多く含まれています。

プロバイオティクスと抗酸化物質がたっぷりのこの穀物は、腸と心臓の健康を助けるのに最適で、血糖値を監視したい人にとって素晴らしい低血糖の選択肢として知られています。

機器

中型ソースパン - フリーカ調理用。

材料

フリーカの材料：フリーカ、オリーブオイル、水、塩。
フリーカ - フリーカは中東製品を販売しているどの店でも手に入りますが、良質のものを探してください。（日本では通販で手に入ります）

水 - フリーカを調理するための水道水。

オリーブオイル - 私はエキストラバージンオイルを使うのが好きですが、他の中性油でも大丈夫です。

海塩

手順

トレイにフリーカを置き、フリーカからゴミを取り除きます。

水に浸したフリーカ

手順 2 | フリーカを最大 15 分間浸します

水に浸した後のフリーカ

手順 3 | フリーカを水から洗い流し、鍋でオリーブオイルを温め、フリーカを加えて 1 分間ソテーします。

鍋で調理したフリーカ

手順 4 | 沸騰したら、沸騰したお湯を 1 カップ加え、蓋をして 15 ~ 20 分間煮込みます。

フリーカの食べ方

フリーカは素晴らしい穀物で、サラダ、スープ、メインディッシュなどさまざまな用途に使用できます。パスタ、キヌア、白米などのレシピでも簡単に代用できます。フリーカはヨーグルトと組み合わせるとおいしくいただけます。



Not: Merry Christmas



PFLP 創立 57 周年のポスター



12月14日「イスラエルはジェノサイドを止める！」京都デモ

今号の内容

アサド政権の崩壊、曾意味するものは? 1
 シリアでの打倒、それは何を意味するのか? 3
 イスラエル軍はどれくらい崩壊に近づいているか 4
 シリア、勝者と敗者、あるいはその両方 5
 シリア政権の崩壊、アラブ地域に何を語っているのか 7
 「オスロ会議」と「ガザ法廷」 8
 【パレスチナ日誌 10
 パレスチナの愛した歌 14
 あいしいパレスチナー 15
 トピック 16



11月29日新宿ラッピングデモ



12月1日スペインの50都市で行われた抗議行動



12月6日イスラエルを万博に呼ぶな! 署名提出